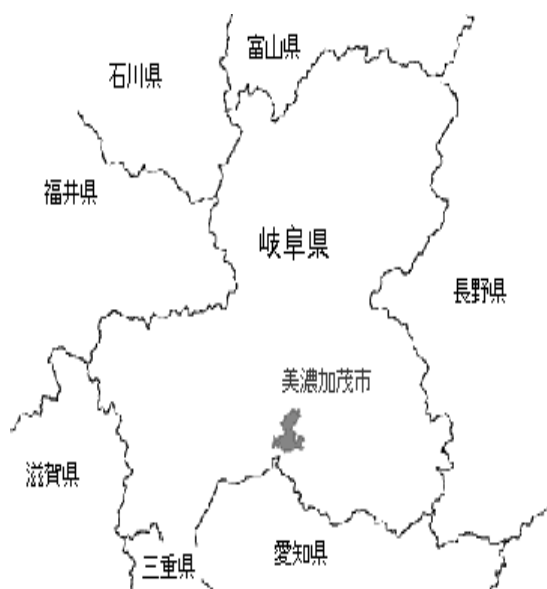


第2章 美濃加茂市の環境：現状と推移

美濃加茂市の市の概要及び環境に関する主な状況をまとめました。社会経済情勢、人口推計については、第5次総合計画書に掲載されています。また、環境測定の詳細については、「みのかもの環境（美濃加茂市環境白書）」をホームページ等で公開しています。

1. 市勢

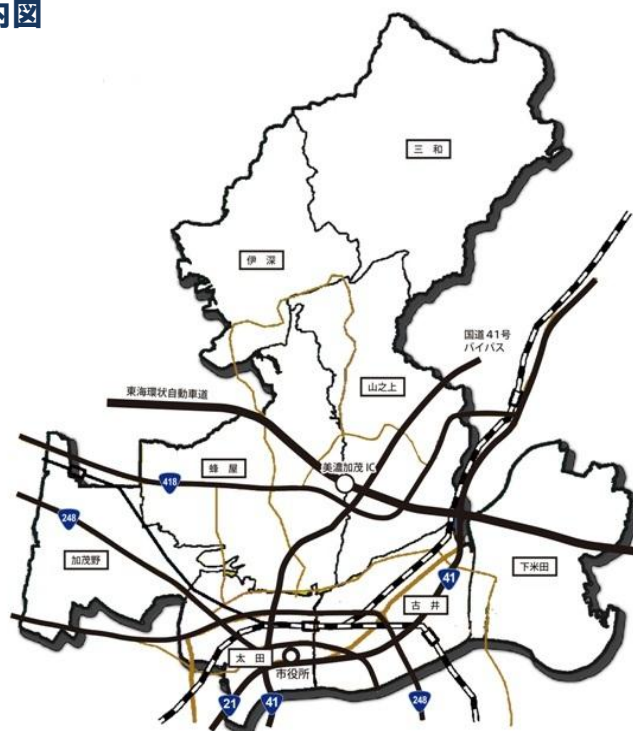
① 美濃加茂市の位置



面積	74.81	km ²
東西	11.6	km
南北	13.8	km
海拔	最低点 59.1m（草笛町4丁目） 最高点 559.2m（御殿山山頂）	

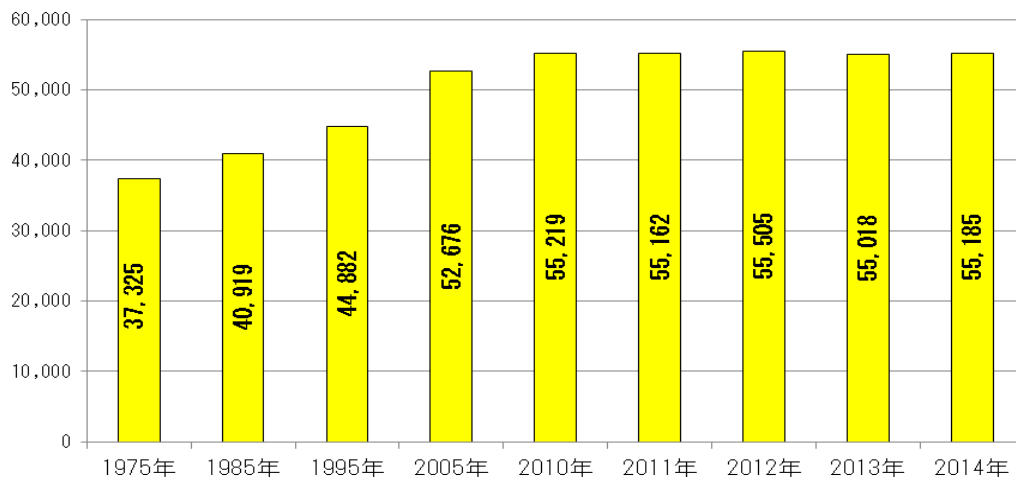
極東	東経	137° 05' 24"	（下米田町信友）
極西	東経	136° 57' 44"	（加茂野町稲辺）
極南	北緯	35° 25' 36"	（深田町2丁目）
極北	北緯	35° 33' 02"	（三和町廿屋）

② 美濃加茂市内図

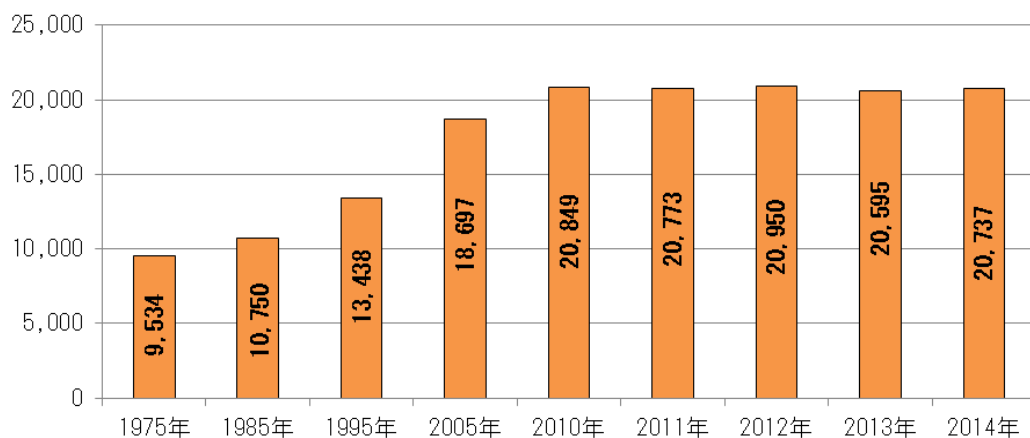


2. 人口・世帯の推移

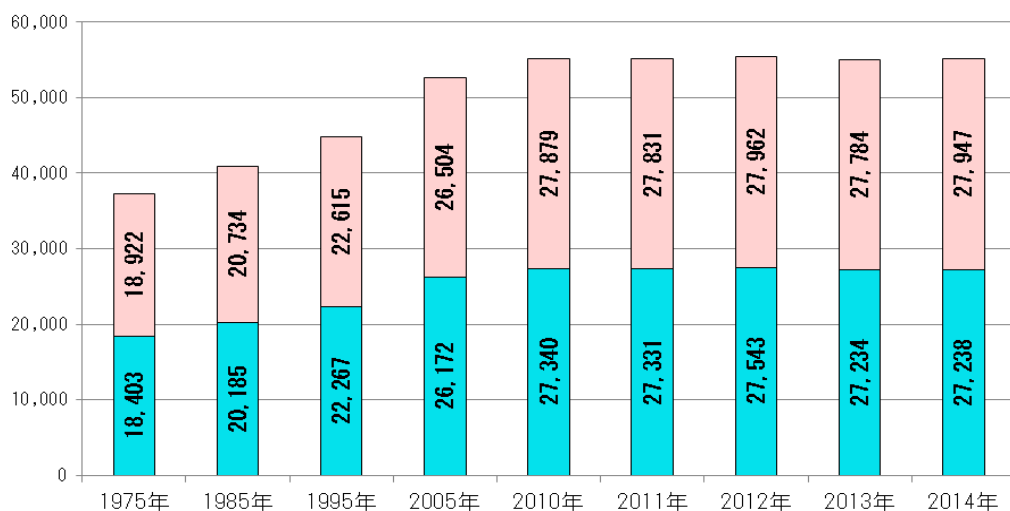
①総人口（単位：人）



②世帯数（単位：世帯）

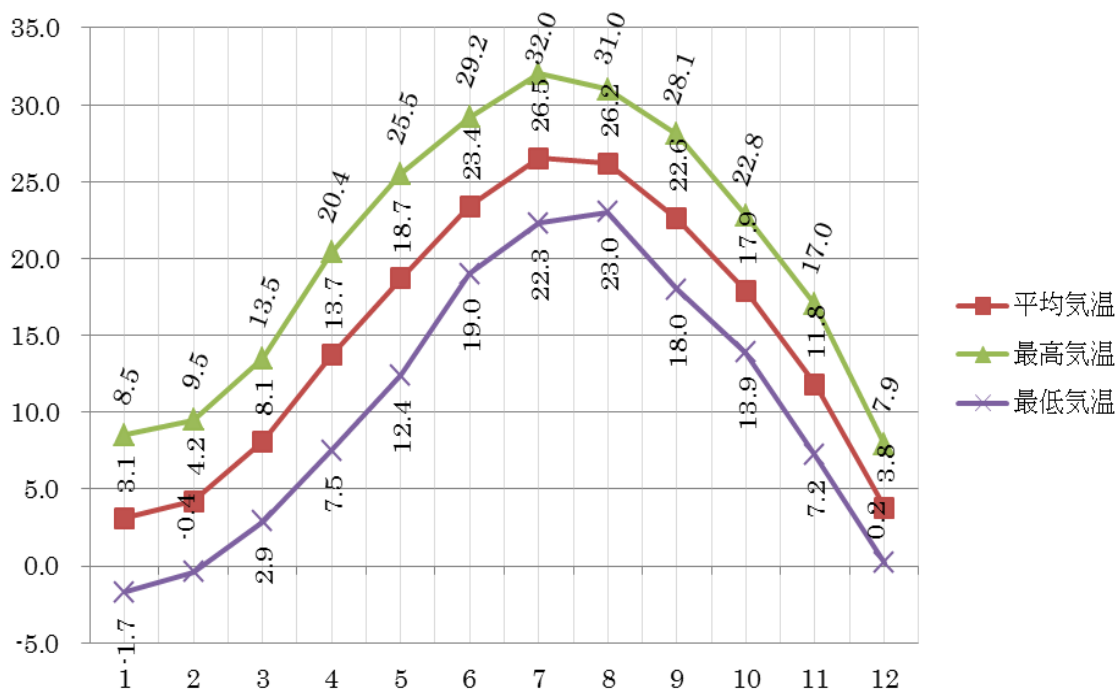


③男女別人口（単位：人）

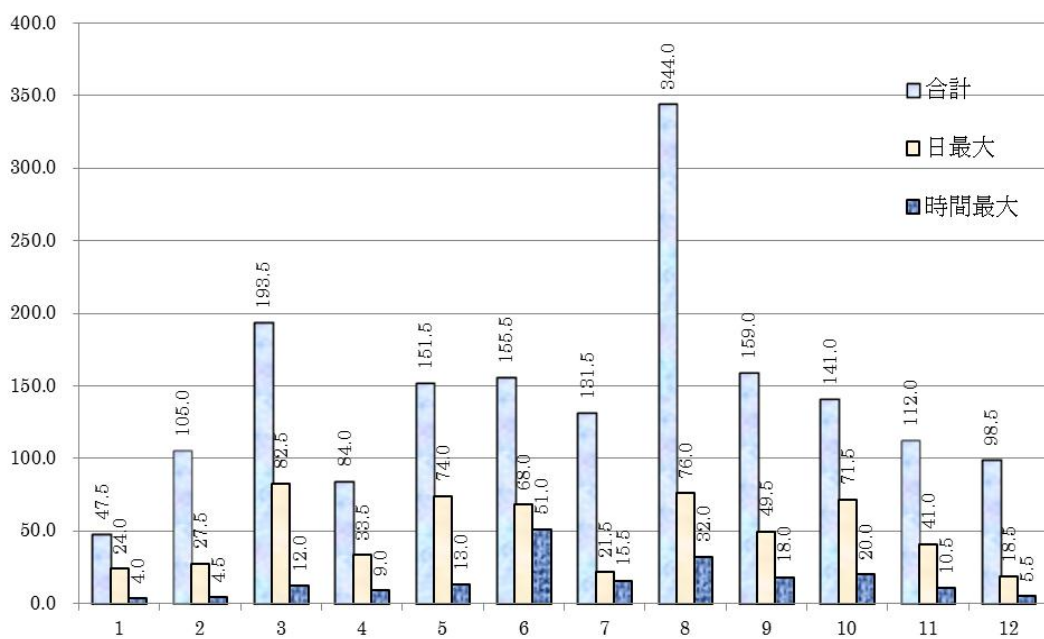


3. 気温・降水量の推移

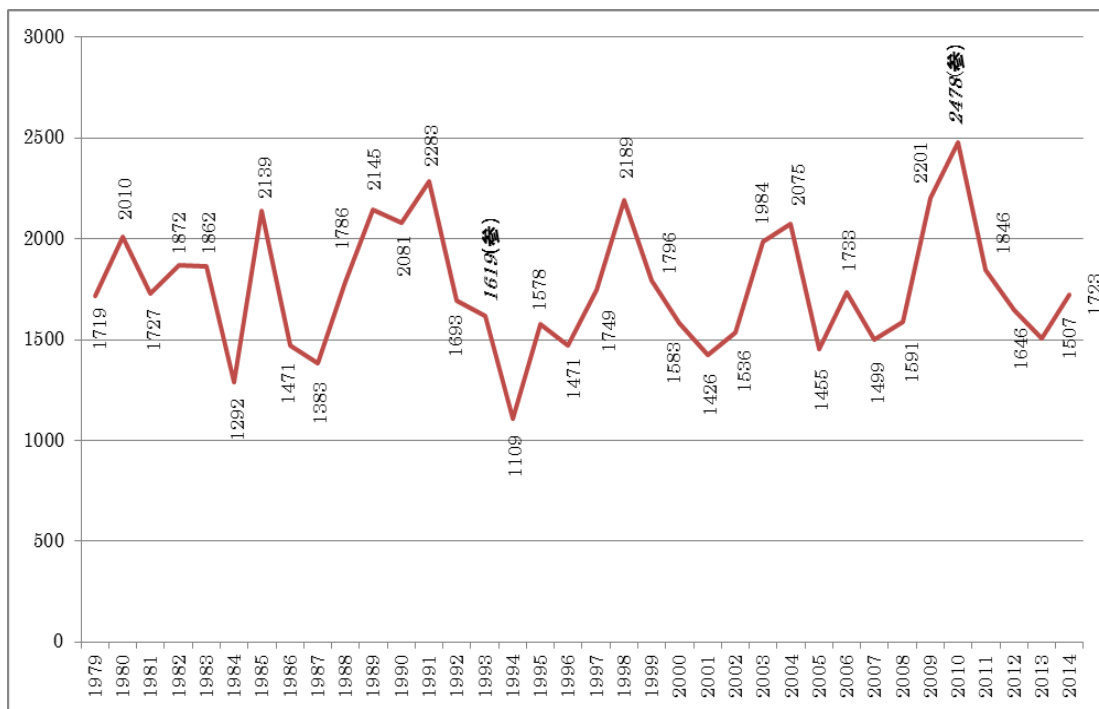
① 気温の変化



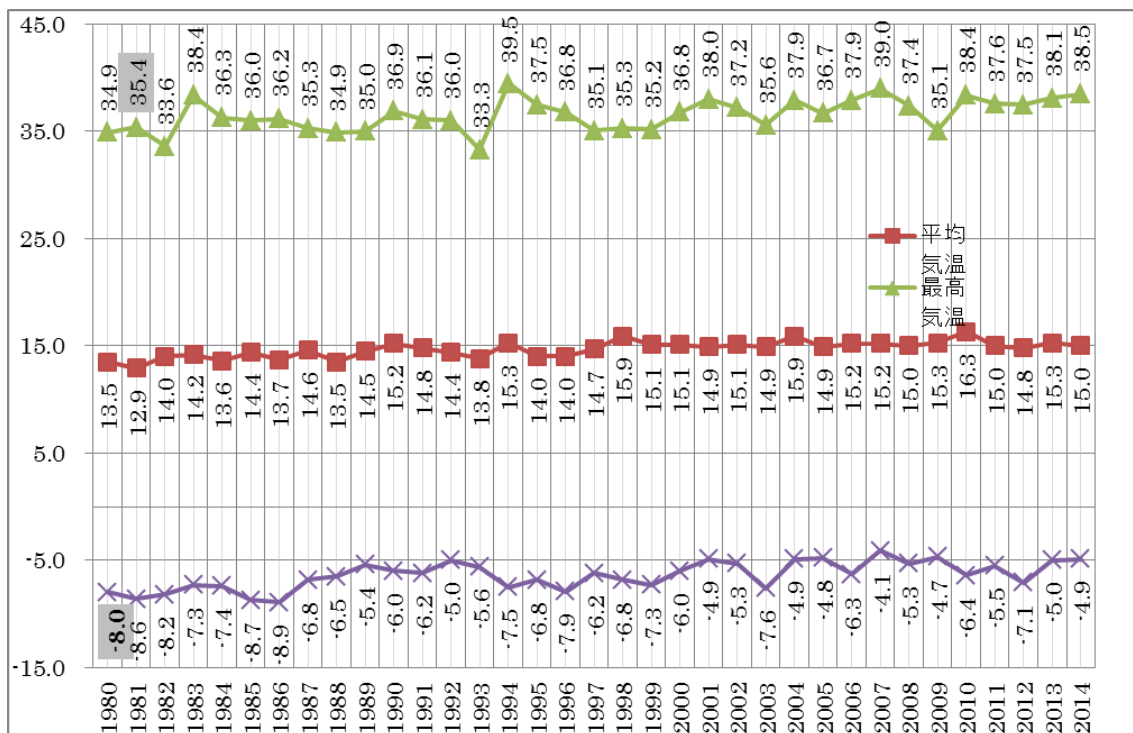
② 月別の降水量



③年間降水量の経年推移 (1993年、2010年は資料不足のため参考数値)



④最高気温・最低気温・平均気温の経年推移 (塗りつぶしは、資料不足のため参考数値)

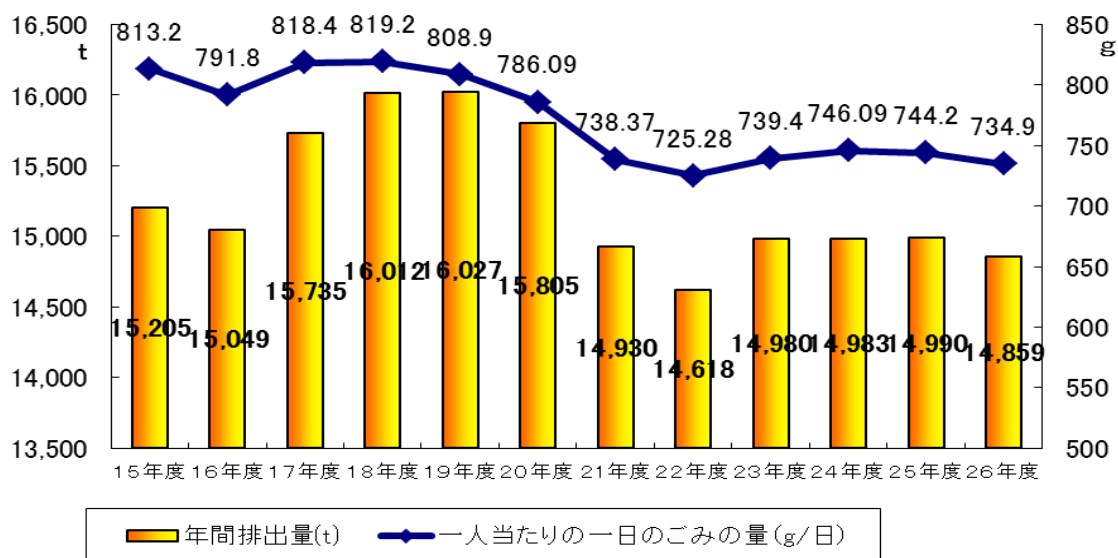


4. 廃棄物の処理状況

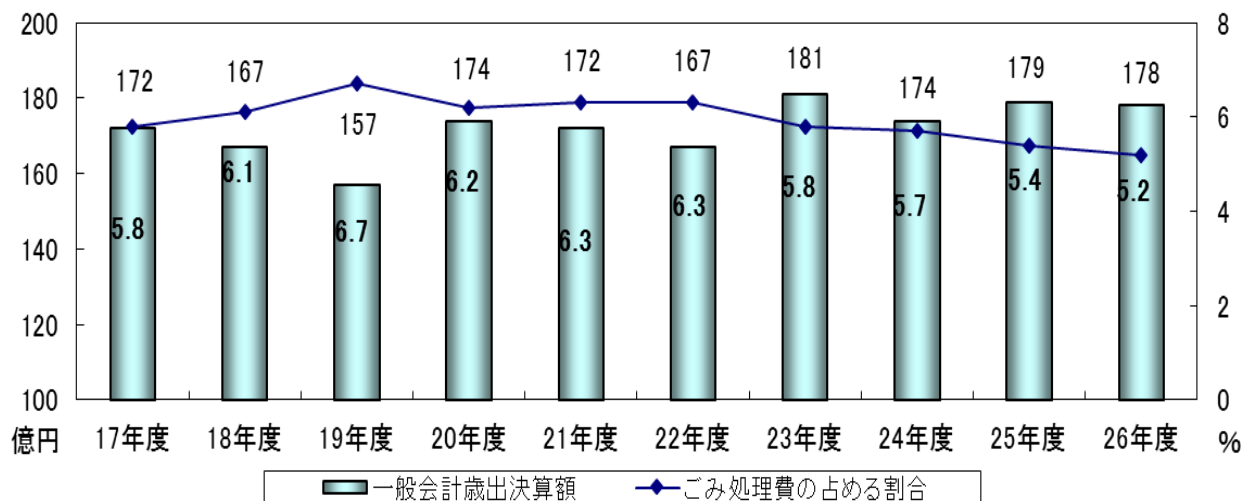
＜一人当たりのごみの排出量（生活系）＞ (g/日)

	可燃物	不燃金物	不燃ガラス	資源缶	資源びん	粗大ごみ	特別ごみ	PETトレイ	総計
H20	469	11	5	3	12	6	1	4	509
H21	451	8	5	3	11	5	1	4	488
H22	444	4	5	2	11	4	1	3	474
H23	452	4	5	2	10	3	1	2	479
H24	453	4	4	0	9	3	1	2	476
H25	446	4	4	0	9	3	1	2	469
H26	439	4	4	0	9	1	1	2	460

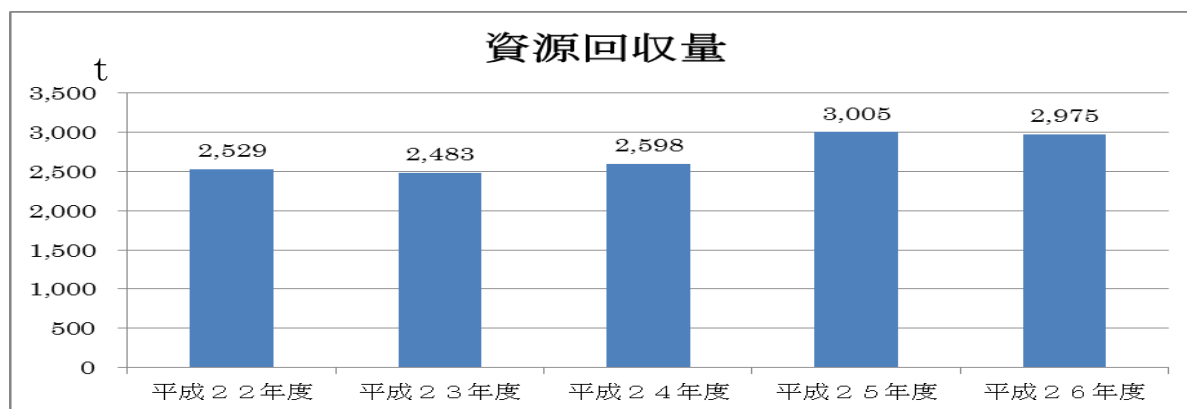
＜ごみの総排出量（生活系・事業系）＞



＜一般会計に占めるごみ処理費用の割合＞



5. 資源回収量の推移



※集団資源回収品目：新聞・雑誌・ダンボール・チラシ・牛乳パック・古着・アルミ缶・その他紙容器類

6. 温室効果ガスの排出量

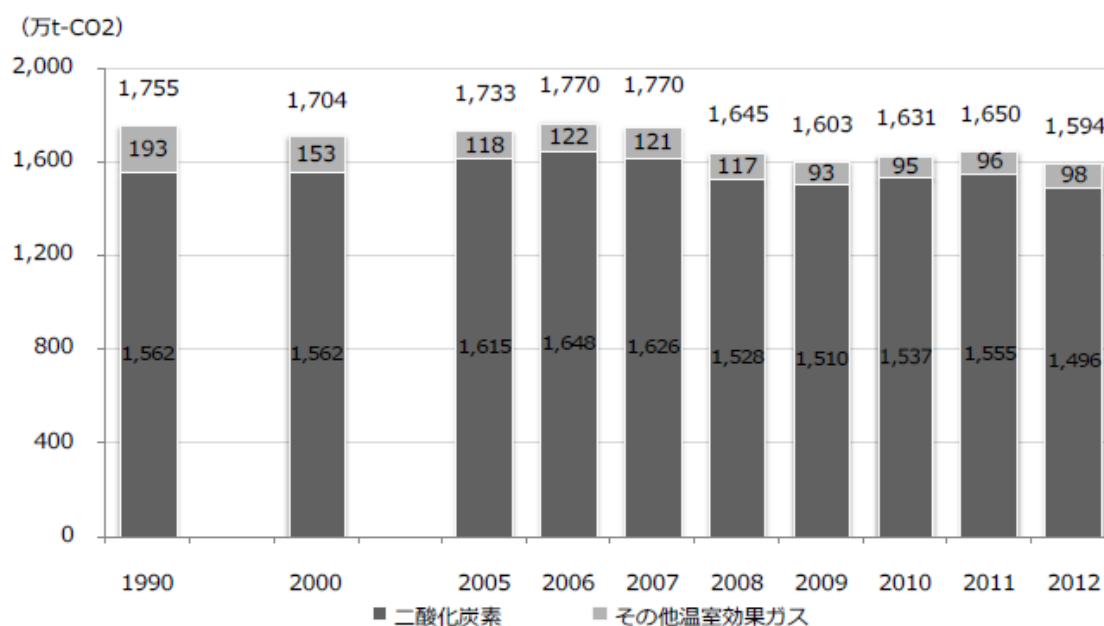
美濃加茂市の温室効果ガスの排出量は把握できていませんが、岐阜県環境管理課の調査による岐阜県内の調査結果がホームページで公表されていますので、引用し掲出します。

岐阜県の2012（平成24）年度の温室効果ガス排出量は1,594万t-CO₂であり、基準年度である1990（平成2）年度と比較して9.2%減少しています。また、2012（平成24）年度の森林の二酸化炭素吸収量は120.4万t-CO₂であり、これを踏まえると1990（平成2）年度比16.0%減少となります。

◆温室効果ガス排出量の推移

	1990年度	2000年度	2005年度	2010年度	2011年度	2012年度
二酸化炭素	1,562	1,551	1,615	1,536	1,555	1,496
その他の温室効果ガス	193	153	118	95	96	98
合計	1,755	1,704	1,733	1,631	1,650	1,594

出典：岐阜県環境管理課調べ



7. 電力消費量の推移

美濃加茂市の電力消費量の5年間を推移では、主に一般家庭向けの電力消費量「電灯」は、東日本大震災以後の節電意識の向上や電気料金の値上げ等を要因として人口・世帯数が横ばいで推移しているにも関わらず、減少傾向となっています。平成22年度と平成26年度の比較では、約6.3%の減少となっています。一方、主に工場や大型店舗等事業所の電力消費量「電力」は、平成25年度まで減少傾向でしたが、平成26年度では新規工場の進出等の要因により、増加に転じています。ただし、下表の事業所の電力消費量は、電力小売自由化により特定規模電力事業者が販売した電力消費量が含まれていませんので、増加傾向といえます。

◆電力消費量の推移

単位：MWh

契約種別	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
電灯	124,038	121,243	121,000	119,300	116,152
電力	317,897	310,236	298,971	299,333	305,059
合計	441,935	431,479	419,971	418,633	421,211

出典：中部電力加茂営業所調べ

8. 生物の状況

① 天然記念物

県指定	川合のムクノキ、山之上のサクラ
市指定	白山神社の大杉、諏訪神社の大杉、正眼寺のしだれ桜、森山のオオグワ、山之上のヒカゲツツジ群落、三和のゲンジボタル

② 大切にしたい生物種

国のレッドデータリストを基準に、市内において絶滅の恐れのある生物種を美濃加茂自然史研究会でとりまとめたものです。（「環境省」：国のレッドデータリストのうち市内で見られる種、「美濃加茂市で大切にしたい種」：環境省の選定を除き、市内において絶滅の恐れのある種）

鳥類

環境省	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	トモエガモ、サシバ、ハヤブサ、ヨタカ、サンショウクイ
	準絶滅危惧(NT)	ヨシゴイ、オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、チュウサギ ミサゴ
美濃加茂市で大切にしたい種		コシアカツバメ、キレンジャク、ヒレンジャク

魚類

環境省	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	イチモンジタナゴ
	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ネコギギ、ホトケドジョウ、シロヒレタビラ、カジカ
	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	アカザ、スナヤツメ、アジメドジョウ
	準絶滅危惧 (NT)	ヤリタナゴ
美濃加茂市で大切にしたい種		ドンコ、ギンブナ

※上記魚類の中で川浦川にはネコギギ、カジカ、アカザ、スナヤツメ、アジメドジョウが、木曾川にはイチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、アカザ、ヤリタナゴ、スナヤツメが生息。メダカの野生種は、市内では絶滅。



ネコギギ



アジメドジョウ

昆虫類

環境省	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	ホシチャバネセセリ
	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ウラナミジャノメ、タガメ、ギフチョウ
	準絶滅危惧 (NT)	オオムラサキ、キイロヤマトンボ
美濃加茂市で大切にしたい種		スジボソヤマキチョウ、ハッチョウトンボ、ウスバシロチョウ



ホシチャバネセセリ



オオムラサキ

植物（維管束植物）

環境省	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	キイトラッキョ、キンラン、ミズオオバコ、イヌノフグリ、マメズタラン、ミズニラ、イヌセンブリ、イヌハギ
	準絶滅危惧（NT）	ミゾコウジュ、ツメレンゲ、エビネ
美濃加茂市で大切にしたい種		オオバノハチジョウシダ、イワオモダカ、ビロードシダ、アオネカズラ、イワヒバ、クモノスシダ、コモチシダ、キセルアザミ、カワラサイコ、カワラハハコ、サワオグルマ、イカリソウ、オオタチツボスミレ、アケボノスミレ、イワナンテン、ヤマグルマ、レンプクソウ、カワラナデシコ、ヤドリギ、ジュウニヒトエ、タムシバ、キバナアキギリ、センブリ、カタクリ、ミズギボウシ、イワギボウシ、イワタバコ、ナメラダイモンジソウ、スズサイコ、ナガエミクリ、ウンヌケモドキ、ヒメコヌカグサ、ミズネコノオ、ヤナギヌカボ

※ カワラナデシコ、カワラハハコ、ミズオオバコについては河川改修で絶滅の恐れあり。



イヌノフグリ



キイトラッキョ

分類用語のカテゴリーとその定義

●「絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）」	絶滅の危機に瀕している種
○「絶滅危惧ⅠA類（CR）」	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
○「絶滅危惧ⅠB類（EN）」	ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
●「絶滅危惧Ⅱ類（VU）」	絶滅の危険が増大している種
●「準絶滅危惧（NT）」	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

③ 特定外来生物

現在、アライグマやブラックバス等、外来種といわれる動植物が従来の生態系に深刻な影響を与えています。人間が、本来の生息地以外へ持ち込んだ動植物が野生化しています。生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又は及ぼす恐れのある外来生物について必要な規制を行っています。

美濃加茂市で見られる特定外来種指定生物

分類群	種名
哺乳類	アライグマ、ヌートリア
両生類	ウシガエル
魚類	オオクチバス、ブルーギル
植物	オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、アレチウリ



アライグマ



アレチウリ

【資料：美濃加茂自然史研究会】